



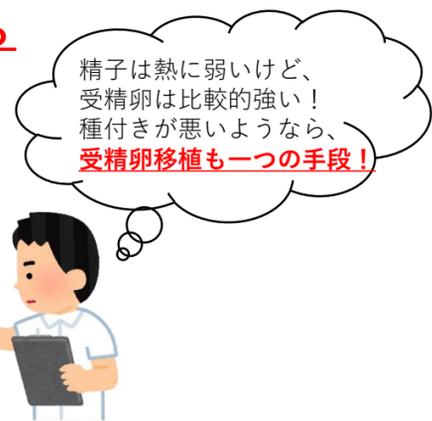
恐怖の猛暑、再び…？ 要！暑熱対策！

6月に入り、まだ梅雨入りこそしていませんが雨模様の日が多いですね。この時期が過ぎれば、ついに夏がやって来ます。気象庁からは、今年の夏の気温は「高い」との予報が出されています。去年のような猛暑(図1)がまた来るものと考え、今のうちに準備を万全にしておきましょう。

1 暑熱の影響アレコレ

和牛は、**25℃以上で以下のような暑熱の影響が出始めます。**

1. 体温維持のため、エネルギー消費が増加 ⇒ **発育停滞**
2. ルーメンでの発酵熱を抑えようと、**食欲が減退**
3. **水分摂取量の増加**(図2)
4. **繁殖成績の低下**(受胎率の低下)



エネルギー消費が増えるのに、食欲は減退…と、負のループに陥ると、繁殖・発育は上手くいきません。「どうせ夏は暑さでダメなんだ…」と諦めず、少しでも食い込めるよう対策を行きましょう！

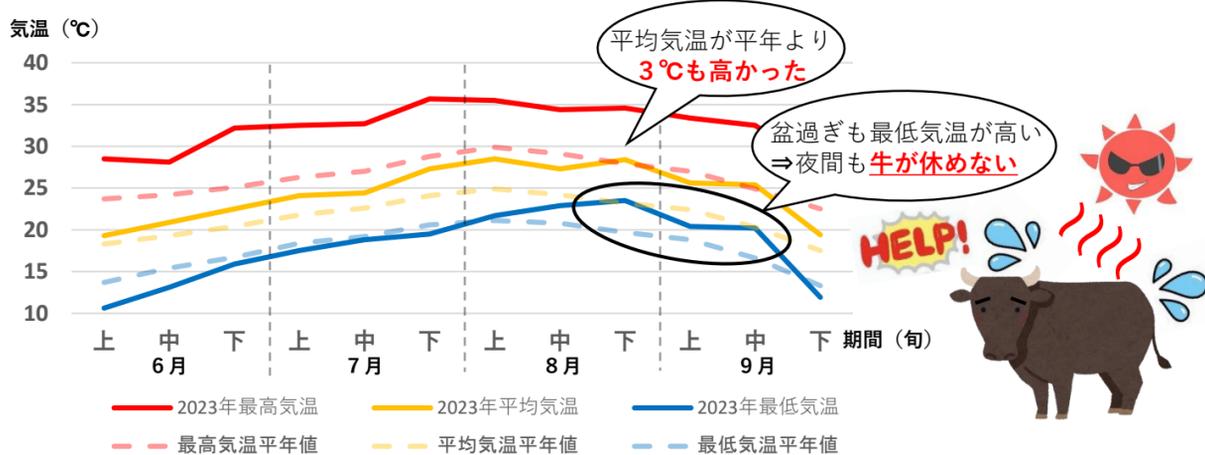


図1 2023年の気温推移と平年値との比較(北上)

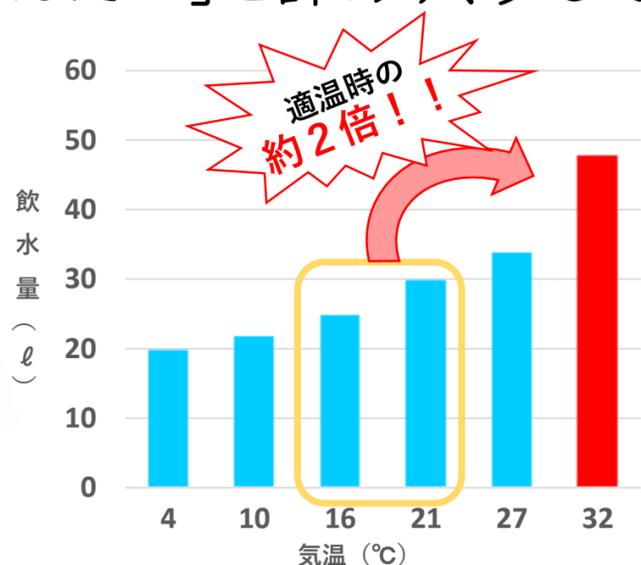


図2 気温と子牛(約270日齢)の飲水量の関係

2 暑熱対策3選

換気・送風

- ・換気扇や扇風機の掃除は、風力upと電気代節約に繋がります。風速が倍になった例も…!
- ・日中の暑さで**バテた牛を涼しい夜間でいかに回復させるか**が重要です。
- ⇒ **夜間も扇風機を回し続けましょう。**

飲 水

- ・図2のように、**30℃を超えるような環境では適温時の約2倍の水を飲みます**。水を飲めなければ、当然エサも食べられないため、発育の停滞や繁殖成績の悪化に繋がります。
- ⇒ いつでもキレイで新鮮な水を飲めるように、**ウォーターカップや水槽を掃除しましょう。**

遮 熱

- ・牛に直射日光が当たらないよう、**寒冷紗等でしっかり遮光**しましょう。
- ・日光で暖められた屋根からの熱を防ぐため、遮熱剤の塗布や遮熱シートが有効です。
- ※設置例は裏面下のコラムをご覧ください

3 暑さが辛いのは草も一緒 草地の暑熱対策

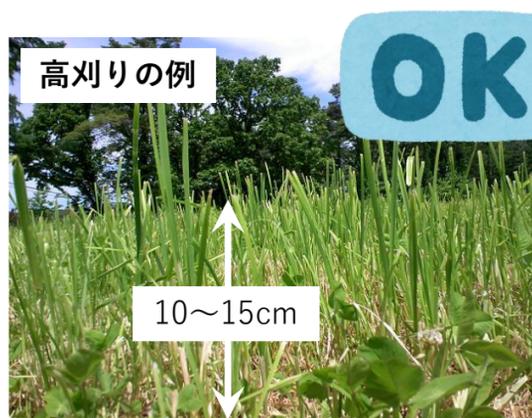
昨年の猛暑では、全県的に2番草収穫後に牧草の夏枯れが発生しました。今年も、同じ暑さでも対応できるように、夏期の草地管理を確認していきましょう。

収穫タイミング

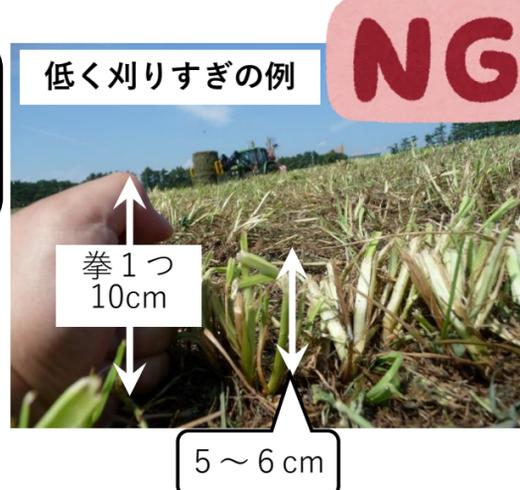
2番草の収穫時期は、1番草収穫後40～55日が目安です。しかし！高温時の収穫は牧草にかかるストレスが大きく、夏枯れに繋がりがやすいです。梅雨の合間となりますが、暑さが本格化する前の7月中旬頃までに収穫を終えましょう。

収穫時の高刈り

2番草の刈取り高は、地面から10～15cmで、緑色の部分が残るようにしましょう（「もったいない」は禁物です！）。低く刈ってしまうと、再生のための養分や水分が蒸散してしまい、夏枯れに繋がります。



牧草の地際の白い部分には、再生や成長の為に養分が蓄えてあるよこれだけ高く刈れば、傷つける心配はないね！



白い部分で刈ってしまった...蓄えてあった養分や水分がなくなり、再生できるかな...



収穫後の追肥

追肥は天候を確認し、雨の降る前後に行いましょう。乾いた圃場に肥料を撒くと、肥料焼けを起こします。

《子牛を大きく育てよう！》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

マニュアルのダウンロードはこちら→



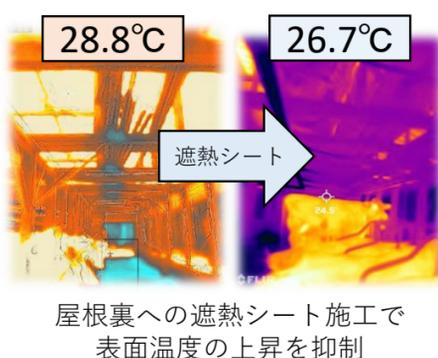
○ 哺育牛の暑熱対策

哺育牛は体温調整の機能が未熟なため、暑熱対策がより重要となります。暑い日が続くと（25℃を超えると影響が始めます）体温の上昇や呼吸の増加から、食欲減退・体力の消耗に繋がりが、発育停滞や疾病、最悪の場合死に至る事もあります。

また、暑熱は当然母牛にも影響し、乳質が不安定になる事で哺育牛の白痢の原因にもなります。近年の猛暑に負けないよう、今から対策して立派な子牛を育てましょう！

【暑熱対策のポイント】

- 通風を行う（夜間も継続！）
- 屋根からの輻射熱を防ぐ
- 直射日光を防ぐ
- 常に清潔な水を与える
- 給餌・哺乳回数を増やす
- 粗飼料は5cm以下に細断する



屋根裏への遮熱シート施工で表面温度の上昇を抑制



寒冷紗による日除け

